

私たちにできること

- 知り・知らせる
 - 関心を持つ。何が起きているかを知る。
 - 家族や周りの人と話す。発信する。みんなで取り組んで実現。
- 脱炭素に向けて取り組む
 - ライフスタイルを変える(衣・食・住・交通)。
 - エネルギー効率の向上(省エネ)(家電製品の買い替え・新築・改築)
 - 再エネへのエネルギー源の転換(再エネ電力、電気自動車)。
 - 再エネの普及(家庭・地域での再エネ発電所の設置)。
- 社会のしくみを変えるために
 - (国・政府・自治体)
 - 政策に対しての意見を出す(パブコメ等)。
 - 気候変動対策に積極的な政党や候補者を支持する(選挙)。
 - 政策を提案する(陳情・請願、審議会への参加、議員になる等)。
 - 地域で取り組みに参加する。
 - (企業)
 - 気候変動対策に積極的な団体・企業を応援する(声・出資・会員・寄付)。
 - 企業へ提案や意見を出す(株主・消費者・市民として)。
 - (団体)
 - 気候変動対策の取り組みに参加する(署名・イベント・デモ)。

ご存知ですか？ 身近で使用されている危険な化学物質を!!

原爆とPFAS 人類が生み出した永遠の化学物質



最近話題になっている有機フッ素化合物「PFAS」。

焦げつかないフライパン・炊飯器のうち釜・油ものに便利なホイル・知らずに使っている化粧品・・・、米軍基地からの汚染が問題になっているのは、火災を瞬時に止める「泡消火剤」です。

類似のものが約5000種類もあり、中でも毒性の強い2つが「PFOS (ピーフォス)」と「PFOA (ピーフォア)」です。

人間が生み出したこの人工化合物は、化学的に安定しているので、自然界で分解される(バラバラになる)まで数千年かかると言われ、製造元のアメリカでは「フォー・エバー・ケミカル(永遠の化学物質)」と呼ばれています。

ごく少量でも健康被害をもたらせ、腎臓がん・精巣がん・甲状腺・肝機能障害・高コレステロール・生殖機能障害、お母さんから移染する赤ちゃんへの影響が大きく、低体重児(以前は未熟児と言っていました)などなど、将来世代への影響が心配されています。

アメリカでは、2018年に環境保護庁(有名なEPA)長官が「国家的な危機だ」と宣言し、TVや映画などを通して、広く国民に情報提供し、規制を強めています。欧米諸国の問題提起や規制に対し、能天気なのが日本政府です。

1938年、アメリカの製薬メーカー「デュポン社」の科学者が、冷蔵庫の冷却材の改良中に偶然発見した白い粉末が「テフロン」でした。その後の研究で、フッ素と炭素の結合によるこの物質が、化学構造的に壊れないことも検証されました。これが米陸軍の目にとまり、原爆開発の決め手・濃縮ウランのコーティング剤として秘密裏に使われたのです。デュポン社は、第二次世界大戦後、これを使って様々な産業や家庭用品を生み出し、さらに改良を加え、取り扱いやすい「PFOA (ピーフォア)」をつくりだしたのです。

アメリカが、ベトナム戦争で空散したオレンジ剤・PCB(ダイオキシン類)が、のちに農薬などに使われてきたように、「PFAS」も実は軍事・原爆開発に使われてきたと証言されています。

濃縮ウランと言えば「原発の燃料」です。原発の放射性廃棄物にはPFOAも抱えこまれているのでしょうか。

戦争の準備より 平和の準備こそ日本人らしい

2023.12.5
パルコ-7°推進学習会より